

下野市は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会におけるキプロス共和国のホストタウンです。

キプロス通信 Vol.11

～オリーブの実り～

この夏、盛り上がりを見せた平和の祭典オリンピック・パラリンピック。古代オリンピックでは、優勝者に平和の象徴であるオリーブの冠が授けられていました。

地中海地域の特産品であるオリーブは、キプロスの国旗や国章にも大きく描かれています。

オリーブは、自然豊かなキプロスの大地の恵みとして、古代からキプロスの人々にとって生活に欠かせないものでした。

オリーブの歴史は古く、6,000年前にはキプロスで生産されていたことが記録に残っています。

キプロス島を含む地中海東部沿岸地方の地質は大樹の生育には不向きなものでしたが、オリーブの木はこの地質を好み、海の近くでよく育ったため、この地方で貴重な食物・輸出作物となっていました。



キプロス共和国の国旗(左)と国章(右)
平和の象徴である鳩とオリーブは、旧約聖書の創世期にも記述があります。



キプロスの伝統食であるオリーブ・ブレッド。復活祭前の断食(肉食を断つ)期間中には欠かせない。黒オリーブが丸ごと入っていて、しっとり美味しいパンです。



グリーンオリーブのマリネ。熟す前のオリーブを軽く叩いてヒビを入れ、あく抜きしてから塩漬けに。食べるときにレモンを絞り、あらびきのコリアンダーシード、ニンニクをまぶし、オリーブオイルをかけていただきます。

オリーブは、料理にはもちろん、古代には胃腸薬や入浴剤としても利用されました。墓の中にオリーブの枝を置く習慣が残る地方があったり、信仰の証として儀式でオリーブオイルを体に塗ったりすることも。それだけ、地中海地域ではオリーブやオリーブオイルは、生活と切っても切り離せないものなのです。

キプロスのオリーブは、小ぶりのサイズが特徴です。トロードス山脈の入り組んだ、機械が入らないような場所で栽培されていますが、豊かな自然の恩恵を受け、香り豊かに実ります。

オリーブは、10月から2月頃までが収穫時期。日本ではなかなか実を食する機会はないと思いますが、これを機に、食卓に添えてみてはいかがでしょうか。



樹齢700年以上のオリーブの木(指定保存樹木)

【写真提供】

グリーンオリーブのマリネ：キプロス観光政務官組織
その他：キプロスインフォメーションサービス